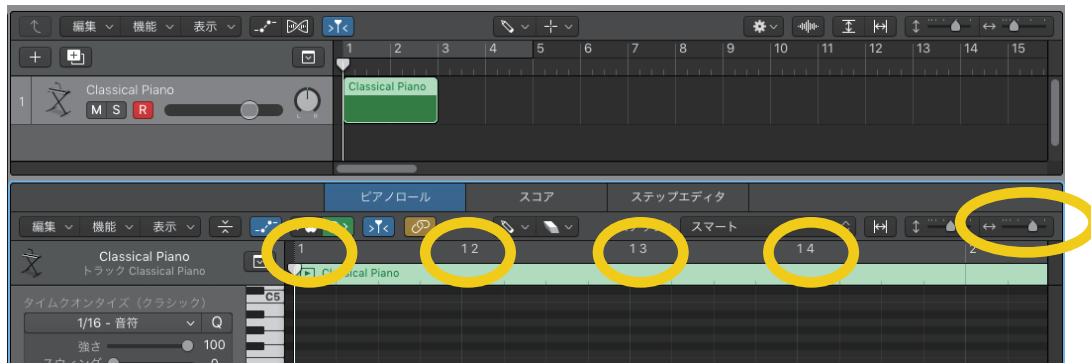
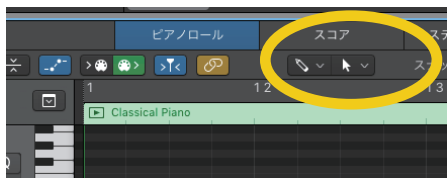


3連符の入力の仕方 : 4/4拍子での「1拍3連」 ～ Logic ProX 「タイムハンドル」機能を使用して

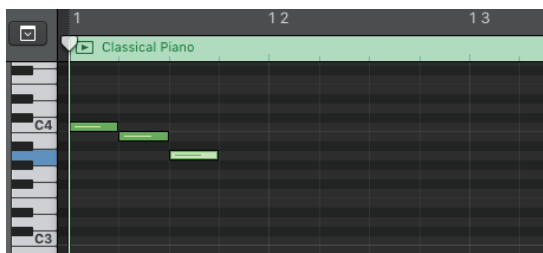
1. 「ピアノロール画面」の横の「拡大・縮小」を調整して、下図のように、小節内が1拍ずつ表示される状態に準備しておくことと入力しやすい。今回は「4分の4拍子」なので、1つの小節内には、1拍の内部が「16分音符4個分」に区切られており、さらに、それが4拍分存在している。



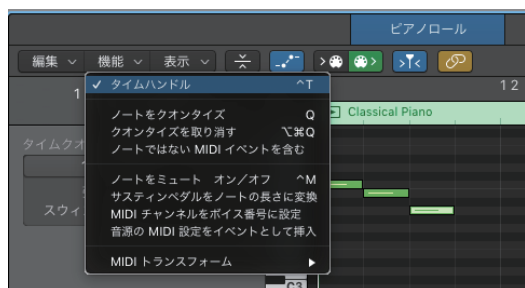
2. 「ピアノロール画面」のメニューをセットする。左メニューは鉛筆ツール。右メニューは矢印ツールにする。この場合、通常時は鉛筆ツールだが、コマンドキーを押している時は矢印ツールとなる。



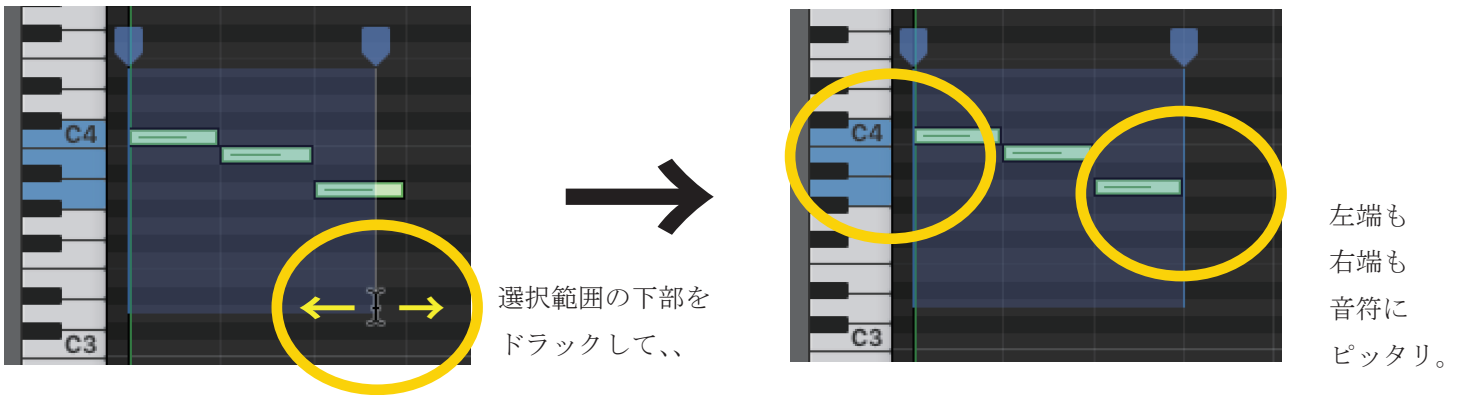
3. 課題譜面の第1小節目「上の段」の第1拍目を入力する。まずは、第1拍目内の3つの音を、下図の通り、全て「16分音譜1個分」の長さで3つ入力する。



4. 「ピアノロール画面」の「機能メニュー」をプルダウンして、「タイムハンドル」にチェックマークを入れる。



4. 「コマンドキー」を押して「矢印ツール」にした状態で、打ち込んだ3つの音全体を囲うように「左から右へ」ドラッグして選択する。すると、「タイムハンドル」の選択範囲が薄青く表示される。選択範囲の下部をドラッグすることで選択範囲の長さが調節できる。
【重要】ここでは、必ず、下右図のように、右端も左端も、音の長さに、「ピッタリ」と、選択範囲の左端を合わせる。



5. 「コマンドキー」を押して「矢印ツール」にした状態で、「タイムハンドル」の選択範囲の右上部にある「ハンドル」部分を右へにドラッグして「選択範囲の全体」を横に拡大させる。

【重要】ここでは、必ず、下右図のように、「選択範囲の全体」が「16分音符4個分」(=1拍分)になるように拡大させる。選択範囲の右端は、目盛りの「12」(=第1小節目の第2拍目のあた)に「ピッタリ」とあわせる。



6. これで、第1小節目の第1拍目の3連符の入力が完了した。

7. 「タイムハンドル」の選択範囲を「解除」したい時は、「ピアノロール」画面 > 「機能メニュー」> 「タイムハンドル」のチェックマークをはずす。